

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 広島県 】

1 実践テーマ	【 I, V 】
2 実施対象者	県立五日市高等学校 全校生徒829名、教職員70名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 行事名 (特別活動)
4 目標 (ねらい)	オリンピックの意義や歴史を学ぶとともに、講師の勅使川原郁恵さん（スピードスケート女子ショートトラック）の競技生活から挫折や成功、生き方考え方を知る中で、自分自身のことと捉えて今後の学校生活を送るうえでの参考にしてもらうこと。
5 取組内容	事前に、勅使川原郁恵さんのプロフィールを生徒に提示した。 事後学習では体育の授業、体育理論において感想を聞くなど、オリンピックの意義の単元に役立てた。 11月20日（火）2・3限を特別時間割を組み、75分間の講演形式で行った。 当日は寒い中、生徒は体育館の床に座り続け、熱心に勅使河原さんの話に耳を傾けていた。 勅使河原さんには座りっぱなしの生徒のことを気にかけて、途中で簡単な体操や体力チェックの実技などを入れてもらえ生徒も有意義な時間を過ごすことができた。 講演後の質問時間では多数の生徒が積極的に質問を行い、時間を超えて熱心に質問に答えていただいた。 勅使河原さんも五日市高校の生徒は明るく元気でとてもいい生徒さん達ですねと褒めていただいた。
6 主な成果	勅使川原郁恵さんが経験をもとに、今の高校生が抱えているであろう悩み等に触れてもらい、今後を生きていくうえでの参考になった。 特に受験生の3年生にとっては心構えなど多くの教示をいただいた。
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	放送部の生徒に司会を担当させるなど、生徒が主体的に参加して講演会を行うことができるよう工夫した。
8 主な課題等	全校生徒を対象に講演会形式で実施した。 また、五日市高校では学校行事の多い時期のため、生徒にとっては慌ただしくなってしまったかもしれない。 また直前になり、日程・時間が決まるため、教務をはじめ、期末考査前の授業に影響を与えてしまった。

9来年度以降 の実施予定	<p>生徒にとっては非常に貴重な機会をいただいたと感じている。 引き続きこのような機会をいただき、東京オリンピックを『知る、見る、支える』など自分のことと関連付けていけるようになればいいと思う。</p> <p>広島大学の齋藤教授のワークショップのお話を聞き、オリパラ教育を広島でやる意義（国際平和都市 etc）をもっと前面に出して、オリパラ教育を実施していく必要があると感じました。</p>
-----------------	---